

資料1 指導計画

番号	次	時	指導目標	学習活動	理解目標	手 だ て	評 価
1	一	1	○全文を読み通し、スイミーについて考えたことをまとめて話し合おう。 ○全文を読み、初発の感想を持って学習してみたいところを話し合おう。	1. 題名やさし絵から話の内容を想像する。 2. 新出漢字の読み方、難語句の意味の説明を聞き、全文を聞く。 3. 初問の感想を持つ。	理 解 アウエ	○さし絵 ○範読テープ (国語教材カセット)	○初発の感想を持つことができたか。 (ノート・発表)
2	水	2	○全文を読み、初発の感想を持って学習してみたいところを話し合おう。	1. 全文を音読する。 2. 挿絵を中心に場面の移り変わりをとらえ粗筋をつかむ。 3. スイミーの暮らしを想像し、話合う。 4. 気持ちを込めて音読する。	理 解 アイウ	○さし絵 ○さし絵ごとにスイミーがしたことを書いたカード ○ノートにまとめる	○詳しく学習してみたいことを自分なりに考えることができたか。 (ノート・発表)
3	二	1	○場面ごとに、情景や人物の性格や気持ちを想像させながら読み取らせる。 ○楽しく暮らしていたスイミーの様子を読み取らせる。	1. 読みのめあてを確かめる。 2. ひとり学習により、スイミーの様子をとらえる。 3. スイミーの暮らしを想像し、話合う。 4. 気持ちを込めて音読する。	理 解 アウ	○教科書へのアンダーライン ○さし絵 ○吹き出し ○考えをつないだり、違いを見つけたりする話し合い活動	○スイミーの様子がわかるところに線を引くことができたか。 ○スイミーの暮らしを想像することができたか。 (ノート・発表)
4	二	2	○独りぼっちで泳ぐスイミーの様子を読み取らせる。	1. 前時の復習をし、本時のめあてを確かめる。 2. ひとり学習により、スイミーの様子をとらえる。 3. スイミーの気持ちを想像し、話合う。 4. 気持ちを込めて音読する。	理 解 アウ	○教科書へのアンダーライン ○まぐろのイメージ化 ○考えをつないだり、違いを見つけたりする話し合い活動	○スイミーの様子がわかるところに線を引くことができたか。 ○スイミーの気持ちを想像することができたか。 (ノート・発表)
5	三	3	○スイミーが海の生き物たちを見て、元気を想像させる。	1. 前時の復習をし、本時のめあてを確かめる。 2. ひとり学習により、海の生き物たちの様子を読み取らせる。 3. スイミーは、おもしろいものを発見した。 4. 気持ちを込めて音読する。	理 解 アウ	○教科書へのアンダーライン ○部分視写 ○海の中の生き物のイメージ化 ○考えをつないだり、違いを見つけたりする話し合い活動	○海の中の生き物たちの様子がわかるところに線を引くことができたか。 ○すばらしいものをみたスイミーのつぶやきを想像することができたか。 (ノート・発表)
6	水	4	○スイミーや小さい赤い魚たちの考えを読み取らせる。	1. 前時の復習をし、本時のめあてを確かめる。 2. ひとり学習により、スイミーや小さい魚たちの会話をとらえる。 3. スイミーや小さい魚たちの気持ちについて話し合う。 4. 気持ちを込めて音読する。	理 解 アウ	○教科書へのアンダーライン ○部分音読 ○考えをつないだり、違いを見つけたりする話し合い活動	○スイミーや、小さい魚たちの言った言葉に線を引くことができたか。 ○スイミーや小さい魚たちの考えを読み取ることができたか。 (ノート・発表)
7	水	5	○大きな魚を追い出したときのスイミーの気持ちを読み取らせる。	1. 前時の復習をし、本時のめあてを確かめる。 2. ひとり学習により、スイミーの行動をとらえる。 3. 大きな魚を追い出したときのスイミーの気持ちについて話し合う。 4. 気持ちを込めて音読する。	理 解 アウ	○フラッシュカード ○教科書へのアンダーライン ○ペーパーサートの操作 ○考えをつないだり、違いを見つけたりする話し合い活動	○スイミーの行動をとらえることができたか。 ○大きな魚を追い出したときのスイミーの気持ちを想像することができたか。 (ノート・発表)

5	大きな魚を追い出したときのスイミーは、どうおもったか。
4	あたらしい生き物に、あたらしくスイミーのきもち。
3	だんだん元気をとりもどしたのか。
2	スイミーも、ひとりぼっちのきもちを、おもしろい。
1	楽しく暮らしていたときのスイミーの気持ちを、おもしろい。

資料2 児童が考えた学習課題の例

(四) 多様な指導方法の工夫

- ① 児童が積極的に課題作りに参加すること
 - ② 学習課題を追究するための一人学習の仕方を身に付ける。
 - ③ 一人学習で読み取ったことを確かめたり、深めていくための方法を身に付ける。
- つまり、毎時間の授業の積み重ねにより、児童たち自身が単元全体や一位時間の流れの中で、随時、見通しを持ちながら学習できるようになり、学習方法もわかるようになることである。

四、研究のまとめ

- ① 学習のパターンを身に付けさせることは大切であるが、学習の仕方が一つのものにパターン化してしまつたら、児童の興味・関心は持続しない(低学年の場合、特にそうである)。常に生き生きとした読み取りをさせるためには、学習内容に合わせ多種多様な学習の方法を取り入れる必要がある。(写真参照)
- ② 話し合いの輪を広げる工夫
 - 話し合いの活動で最終的にめざすことは、「話し合いの中で出されたいくつかの発言を関係づけたり、まとめたりして、さらに発展した自分の考えを話し、話し合いを深めること」である。このねらいに到達できるように、基本的な「話し合い訓練」から「話し合いの輪を広げる訓練」と段階を踏まえた指導をする。
 - 話し合いの活動に積極的に参加していたかどうか、評価の工夫をしながら意見の交換をさせ、読みを深めさせる。
 - 話し合いの活動に積極的に参加できないと予想される児童には、導入での話し合いや一人学習での発表など、確実にできる場面で指名し、話し合いに参加していることへの意識づけをさせ、学習意欲を持続させる。